

---

報告者名	兼城 糸絵	被調査者生年	未確認(女)
調査者名	川村 清志	被調査者属性	NPO職員/イベントサークル広報担当
補助調査者	兼城 糸絵		

---

### Sさん自身の簡単なライフヒストリー

仙台市泉区出身。コスプレイヤー歴はブランクがありつつも長く続けている。サンドイッチマン的に宣伝係としてコスプレイヤーを務めている。昨年勤めていた会社を辞めて、現在はNPO法人で働いている。Sさんは「 kannagi町内会」のメンバーでもあり、「 kannagi町内会」の公式twitterを担当している他、七ヶ浜町内で様々な復興支援事業にも参加している。調査者たちはウェブ上にて彼女たちとコンタクトを取り、イベントの当日にお話を伺わせていただいた。

### 「 kannagi町内会」の結成経緯

kannagi町内会は現在主に6人で活動している。そのうち1人は七ヶ浜だが、宮城県内には4人、もう1人は埼玉県に住んでいる。

Sさんは広報を担当している。ツイッターなどはSさんが担当しており、返信などもしている。会長であるR氏と副会長であるN氏とは仙台で行われていたコミケ(コミックマーケット)にて出会った。会長は kannagiの「痛車(いたしゃ:漫画やアニメ等のキャラクターやロゴのステッカーを貼り付けたり塗装するなどして、装飾した車のこと)」を所有していた。3人で意気投合して、 kannagiで何かやろうということで構想として町内会があった。その時は一迅社公認のサークル、作者の応援、 kannagiファンと地域振興の3本柱で考えていた。町内会の結成はアニメ化以降だった。2008年9月に作者が病気になり、2009年2月には町内会結成のための声かけをしていた。

### 震災前の活動

国際村にある展示ブースの展示物を変えたり、聖地巡礼に集まるファンのために神社の掃除等を行っていた。掃除についてはブログで声かけなどしており、その都度20人ほど集まったという。掃除を始めるにあたって、きちんと地域の人たちとも関係を作り上げてきた。町内会の中心メンバーの平均年齢が40歳ということもあり、ある程度経験とかも積んできているということもあり、大人だからできることをしていった。地域の人々には痛車ということで暴走族と勘違いされて理解してもらえなかった。震災時には kannagiのキャラクターをほどこした痛車で支援に走りまわっていたら、みな「 kannagiさん」と声をかけてくれた。目立つから、それで覚えてもらったようだ。

### 震災時、震災後の活動

震災3日後に現地に入った。見慣れた風景が無くなっていて、どうしていいかわからなかったという。国際村とは展示の件を通してお世話になっていたこともあり、つながりがあった。国際村を介して現地に何が必要かを問い合わせた支援物資を届けていた。町内会のメンバーも被災したとはいえ、七ヶ浜の津波被災地の方がひどいということで支援を始めた。7月には国際村が避難所として解除されたが、その後も「七の市」などで炊き出しを行ったりした。その際はアニメ版「 kannagi」の監督を務めた山本寛監督も来てくださっていた。活動を通して、様々な人との関係も点と点がつながって線になっていったような感じがしている。

復興支援をしつつイベントをいくつか行ってきた。東京でもチャリティーイベントを開催したりした。豊島園でコスプレイベントを行い、出店して物品も売っていた。今日出店している酒屋さん(?)もその時に知り合った。

### 「サブカルチャー」を通じた復興支援について

なぜ「サブカルチャー」なのか。もともとコスプレとか痛車とか色々なジャンルの活動をしてきたので、石巻のような「漫画の町」ではなく、「サブカルチャー」として情報を発信して行こうと考えた。今回イベントに参加した秋田の人々(DJたち)とは以前から交流があり、東北で何かイベントがあると手伝いに行ったりしていた。秋田、岩手、福島、宮城でもちまわりでイベントを行う等、相互連携がとれている。サブカルチャーとしているので、コスプレやDJ、痛車、オタ芸、男の娘…など色々なジャンルを含めている。

支援活動をして行く中で、サブカルの実践者たちが七ヶ浜のことを心配しているということがわかった。かななぎの聖地だから七ヶ浜が心配だと言っている人もいることをまんたんの記者から教えてもらった。いわゆるオタク層の何かしたくてもできないという声を受けとめて動いているという思いもある。

### 今回のイベントについて

今年観光協会に入ったので何かしなければと思っていた。今回のイベントは観光協会主催ではあるが、実施主体は町内会が担っている。今回のイベントももともとはゴールデンウィークに君が岡公園で地元の食材を使ったお弁当を売るイベントだった。でも、情報発信源にするなら、どうせやるのであればということで今回のようなサブカルチャーのイベントとなった。

今日は観光協会の代表が挨拶に来てくれたが、まさか来てくれるとは思わなかった。これまでも色々あって受け入れてもらえないような感じだったので、意外だった。今回は鷲宮商工会も応援にかけているので、商工会からも人を呼んだりした。来年は仙台でDCキャンペーンがある。そのせいか、今回のイベントも宮城県の方でも観光協会のイベントということでホームページでも取りあげられたり、津田大輔のラジオ番組に出たりした。

今回の痛車は、栃木などから来てくれた。10月28日には「痛車7」というイベントがある。そこには沖縄からも痛車が参戦するらしい。

### 七ヶ浜町への支援

忘れていた日本のような情景がそこにあると思う。挨拶が浸透し、気軽に声をかけあえる町だし、そういう七ヶ浜に来る度に受け入れてくれるという感がある。活動範囲は鼻節神社だけではなく、七ヶ浜全体を対象としている。

物資面での支援は終了し、現在取り組んでいるのは主にイベント開催などである。例えば、月末の日曜日には「七の市」を行っている。朝市的な感覚のイベントで、そこで町内会はコスプレして駄菓子屋などをしている。

活動を始めて3年目、震災が起きてからの活動も認めてもらえて、今年から七ヶ浜の活動にいらただけようになった。お祭りの時も氏子さんの方から「かななぎさんにも来てもらって」などと自発的に声がかかるようになった。これもひとえにかななぎ関係者の協力のお陰だといえる。

活動をみていた町の人たちが、町の景観にかななぎのものを取り入れたいという申し出があったりもした。「かななぎさん、かななぎさん」って言うことが本当にうれしかった。初詣の時にちょっとしたバザーをした時に、「かななぎさんにはお世話になっているから」ってお年寄りがかななぎの同人誌を買って帰ったりしてくれた。それがとてもうれしかった。

私たちの活動も当初は避難所に入っていない在宅避難の人たちを対象とした支援を行っていた。ボランティアセンターや愛知から来ているボランティア団体などから支援していただいて布団の支給を行ったりしていた。在宅避難されている方はかなり多かった。当時はボランティアセンターとともに活動をしていたので、花淵浜に限らず被害がひどいところを中心に支援活動を展開していた。

### 商工会への参加

「かななぎ町内会」は七ヶ浜商工会にもともと入っていた。「七の市」に出るためには、商工会に入らなければな

らなかった。商工会の方で「復興市」などを今年実施したのだが、そこでの貢献があったということで観光協会に入らないかということを言われた。商工会の役員が鼻節神社の役員だったり、という関係もあった。

#### 地元の若い人たちとの勉強会

今、若い人たちと地元のために何ができるかということについて勉強会をしている。何かしたいけど、自分たちの生活もあるしということで自分たちなりにできることを勉強しながら考えて行くという会をしている。毎週日曜日朝6時から清掃したりしている。この勉強会は今後も続けて行きたいと思っている。

#### 被災後の鼻節神社の整備について

町内会のメンバーはボランティア保険に入っていないので、実際はボランティアセンターの方が神社の整備をしてくれた。

#### かななぎ町内会の今後の活動

物資面での支援は落ち着いたので、やはり今後はイベントを継続していく。イベントの収益金も今まで七ヶ浜町に寄付してきたので、それをどういう風に生かしていくかということを考えている。かななぎ関連の震災復興イベントがメディアに取り上げられた時に、一迅社さんに問い合わせが行ってしまい迷惑をかけてしまったことがあった。一応かななぎの名前を使っていかどうかということは確認済みである。復興支援をしていく中ではかななぎ町内会としてはサークルで利益を取ることはしない。

もともと横のつながりがあったものが、震災が起きた時にマッチングしたといえる。だから、震災後の活動にもつなげて行けたのだと思う。地域にお世話になっているので、それを恩返しして行かなければならないという思いがあった。

次の震災がくる前にここの現状を風化させていけないと思う。適切な情報を発信していく努力をするべきだと思う。それに、他所からやってくるボランティアは一定期間がすぎればまた元の場所に戻って行くが、私たちは長く地元寄り添って現地の心のケアをしていければいいと思う。

#### 「東北のアトランティス」計画

あわびまつりの際に取材で船に乗せてもらおうと考えている。というのも、貞観の大地震で沈んだという大根神社があった半島が水没したという。引き潮の時にいくと鳥居があるといわれている。そこで、町内会側では密かに「東北のアトランティス」と命名して、「東北のアトランティス計画」をすすめていきたいと思っている。昭和40年ぐらいに海底調査をしたと聞いたので、それを掘り返してみても沈没する前のことを知りたいと考えている。鼻節神社の方が塩釜神社よりも位が高いと聞いたことがある。神社の古いことも調べてみたいと考えているが、どこからあたっていいかわからない。

#### 七ヶ浜の漁業について

県側が漁業特区にしたいという思惑があるようだが、それで地元側と揉めている。漁師たちは企業化して企業のもとで働きたくないのではないかと。企業が入ってきて給料をもらうというスタイルは七ヶ浜の漁師たちが受け入れがたいのではないかと思う。